

## 実施の注意点(先生向け)

このテストは現在の学力に評価を与えるためのものではありません。今後何をどのように指導しなければならないか把握するための材料だと考えてください。採点も必ず行うべきものではありません。

必ず下書き用紙を配布し、解答用紙(問題用紙と一体)は清書用である旨説明してください。下書き用紙の枚数は1科目1枚程度(表裏使用)が標準的だと思いますが、不足した生徒には追加の用紙を与えてください。

回答時間はとくに定めていませんが、全問やったとしても45分まではかからないと思います。時間を定めて実施する場合も、生徒が集中力をなくしたら終了してください。

算数の(1)は合理的な手順で計算できているかどうか、(2)はそれに加えて何を計算しているか明らかにできているかどうか、(3)は数学的に十分な説明ができているかどうかを評価してください。

国語の(1)は意図的に誤解した質問を与え解決させてください。

英語の(1)はネイティブかそれに準じる人が言っている内容を判別できるかどうか評価してください。レコーダーを用いても構いません。

配点もとくに定めていませんが、算数は(1)10点、(2)20点、(3)30点、国語はすべて20点、英語はすべて6点で採点すると60点満点にできます。この配点で、算数で答えだけ書いた場合は各5点くらいが相当だと思います。ただし(1)は計算が書けていればよく、不合理な計算手順で正解しても採点上は満点で、計算の合理性は答えが正しくない場合の加点にのみ用います。英語の(1)は「はっきり伝える意図を持って声を出せる」ことに対して3点、加点として「たいていのネイティブが自然に聞き取れる」(natural and fluent)レベルなら3点、「発音は不自然でも誤解のない理解はできる」(clearly understandable)レベルなら2点、「日本人の英語に慣れているネイティブなら通じる人もいる」(possibly make sense)レベルなら1点を加えるとよいでしょう。国語の(1)もこれに準じてください。算数で回答に単位がない、国語で明らかな誤字がある、英語で綴り間違いがあるなどの場合は、各1点を減じますが、同じ間違いが繰り返しあっても最初の1箇所のみ減点とします。英文和訳での誤字などは、文意が通っている限り減点しません。